

第1回 港湾におけるICT導入検討委員会 議事概要

日時：平成28年6月16日（木） 15:00～17:00

場所：国土交通省 合同庁舎2号館 共用会議室5

1. 主な議事

○事務局より、本委員会の取り組み方針等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

○浚渫工事のみの評価ではなく、港湾全体においてICTを導入することの効果も示すことが必要。

○3次元データの活用により省人化・省力化をどのように図るのが建設業界および i-Construction の大きなテーマであるので、それを軸に検討すべき。

○浚渫工事の個別部分で活用されている3次元データが、全体プロセスで連続していないので全体最適になっていない。全体最適のためには個別部分の3次元データがどのようなものが望ましいかの分析が必要。

○新しい基準の作成には技術的な部分が非常に多いが、基準を運用する段階ではデータの納品や保管方法といった技術以外の課題も出てくるので考慮しておくべき。

○航海の安全という視点から、測深の精度が低下しないことを前提として検討すべき。

○現在、平均断面法で算出されている浚渫土量を3次元データで算出すると数量の誤差も非常に少なくなり、特に薄層浚渫や岸壁際の浚渫などでは有効。精度が高まるという利点はあるが、平均断面法で算出した場合との土量の違いを検証すべき。

○工事や調査でICTを活用する場合には、積算に当たって使用する機材の損料基準も必要になってくるので考慮すべき。

○津波や地震後等での港湾への早急な船舶の入港を考えた場合、水深測量から入港の可否判断までの迅速化という観点も重要。

以上